

総合的な学習の時間・技術科（第 1 学年）

テーマ【折れたバットをマイ箸に】

富田林市立葛城中学校

《学習のねらい》

- ・食育学習の一環として「お箸知育教室」を開催し、折れた木製バットを再利用して『マイ箸』を作る活動に取り組むことで、お箸の持ち方などのマナーを学ぶとともに、割り箸を通して環境について考える。
- ・割り箸を使わずに済ませれば森林の保護につながることを、また、一人ひとりの小さな取組みは、決して無駄ではないことを知る。

《学習の流れ》

	活動内容	活動の詳細・指導のポイント
1	講義 ゲストティーチャーからお箸の歴史やマナー、環境問題についての話を聴く。 [総合的な学習の時間]	<ul style="list-style-type: none"> ■日本国内では年間 250 億膳（木造住宅 2 万軒分）もの割り箸が使い捨てされている。そのうち 97%は輸入材である。世界では 1 年間に東京ドーム 80 個分の森林が消えている。 ■そのような状況のなか、プロ野球などで 1 年間に消費される木製バットは約 20 万本といわれている。これまで折れたバットは捨てられていたが、「お箸知育教室」では、折れた木製バットをお箸として、再利用している。 ⇒生徒たちは、折れたバットは捨てられているものだと思っていたので、再利用できることに驚いていた。
2 3	お箸の製作 ・『マイ箸』を作成する。 [技術科]	<ul style="list-style-type: none"> ■ゲストティーチャーの指導の下、生徒たちは自分の手の長さを測り、手に合った長さに木材をカットし、やすりで角を丸くし、お箸の形にする。その後、デザインを施して作業は終了。福井県小浜市にある工場に送られ、天然の漆が塗られて返ってくる。 ⇒生徒たちは、阪神の鳥谷選手が使っていたバットを見せてもらったり、完成したマイ箸を想像して、楽しそうに作業をしていた。
4	まとめ 中学生が出来ることを考える。 [総合的な学習の時間]	<ul style="list-style-type: none"> ■マイ箸が届いた機会に、各クラスで「中学生の自分たちが出来ることは何か」の交流を行う。 ⇒「コンビニなどで当たり前にもらっている割り箸を断る」「割り箸も洗って複数回使う」など割り箸に関することに加え、「トイレトペーパーなどの紙の無駄遣いをなくす」など、新しい樹木を伐採する量を減らすことに繋がる行動が大切だと学んだ。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

株式会社兵左衛門「お箸知育教室」

《成果》

- ・すぐに結果が出ることを考えるのではなく、一人ひとりが出来ることを真剣に考える時間になった。
- ・割り箸を使わない生活を、すぐにする自信はないけれど、オシャレ感覚で“マイ箸”を持つことはできると思う。“マイバッグ”を持ってレジ袋をもらわないなど同じようなことができないかを考えてみる。（生徒の感想より）

